

建築ふれあいフェア2013 開催

テーマ：「未来へ。一創生のとき」

2013年10月6日(日)～8日(火) 新宿駅西口広場イベントコーナー

「建築ふれあいフェア2013」が去る10月6日(日)～8日(火)の3日間、新宿駅西口イベント広場で開催された。今年は、開催日のうち初日(6日)を「小・中・大学生の日」、2日目(7日)を「会員・設計事務所及び所員対象の日」、そして最終日(8日)を「設計事務所と所員の日」とテーマを決め、各セミナーシンポジウム等を開催した。

●オープニングセレモニー

10月6日(日) 11:00～11:30



西倉副会長



中山新宿区長

昨年に引き続きオープニングは今年も関東大会で金賞を獲得した都立美原高校の勇壮な和太鼓から始まった。

西倉副会長による会場提供をいただいた

「新宿区への感謝」とともに「われわれ建築士事務所の業務と使命」を織り込んだ挨拶に続き、新宿区都市計画部の野澤建築指導課長、東京都市街地建築部の木村建築企画課長から「協会の行政への協力に感謝します」といったご挨拶があり、中田実行委員長の宣言で開会した。

ここからが聞き応えのある和太鼓演奏である。金賞をとった「きらめき」をはじめ力強い演奏に続々と人が集



都立美原高校和太鼓部の皆さん

まる。一糸乱れぬ鮮やかなバチ捌きと、常に絶やさぬ笑顔と時々見せる睨むように力の入った表情の対比が素晴らしい。完全に運動部である!!

公務多忙の中おいでいただいた中山新宿区長からは「建築は生活の中心とも言え、このような活動ができ、建築の安全や快適性を皆さんに知ってもらいたい」とのご挨拶をいただき、パネル展示などをご見学いただいた。

(報告：安田浩司)

初日(10月6日)

●セミナー

「伊勢神宮について」

13:30～14:30

オープニングセレモニーの後、最初の催し物であるセミナー「伊勢神宮」が開催された。

1)伊勢と伊勢街道のハレとケ

まず山田清氏(杉並支部)が「前座だ」と言いつつ、伊勢の街と旧伊勢街道のハレとケについて、興味をそそられる話をされた。ハレとは折

り目・節目で晴れ着に通じる。ケは普段・日常のこと。1週間・1月・1年とハレとケの循環があるという。伊勢神宮では20年に1度のハレを迎えるために遷御の儀が行われる。

昔、賑わった旧伊勢街道を松坂から六軒まで歩いたが、人通りはなく、伊勢はハレとケを繰り返しているが、伊勢の周りはハレの場がなくなっているようだと言った。

2)伊勢の神宮建築の始原をもとめる

「コア東京」7月号に伊勢神宮式年遷宮特別寄稿をいただいた土屋辰之助氏にバトンタッチされ、内宮参



山田清氏(左)と土屋辰之助氏によるセミナー

集殿の改修に携わった経緯を話された。昭和44年にRC造(小屋組みが鉄骨)で建造された建築物で、耐震については問題がないため改修(使

い続ける選択)ということになった。中庭と奉納舞台が表から見えないので、外から認識できるように計画したという。元のコンクリートの外観を木の仕上げにすることにこだわったそうだ。「木はこれだけ使えるという実証になったと思う」という言葉どおり、見事に木造が如く蘇った。初めから棟持ち柱は内側に傾けるとか、軒が下がってくるの見込んで柱と梁を離すなど、継承すべき技術が使われているのだとか。

「社」はやしろ・もりと読む。原始では自然を指し、そこに建築が結びついた。神宮は125社のお社が集まった総体で、斎主が女性である。限りなく続いている遷宮。これから続くであろう行事に夢をみる。タイムリーな話題だった。

(報告：中田千恵子)

●シンポジウム

「子ども未来会議」

中学生の考える未来の町」

15:00 ~ 16:30

「伊勢」に続いては、荻窪中学校2年の男子生徒3名とナビゲーターを務める松枝理事による未来会議「中学生が考える未来の町」が始まった。松枝理事の絶妙なトークの下、自己紹介では生徒3人から住んでいる町の環境が話される。

住んでいる町の好き嫌いを訊ねると、「自然が好き」、「利便性があるが道路の騒音がひどい」、「ごみのポ



シンポジウム
「子ども未来会議：中学生の考える未来の町」

イ捨てが目立つ」などと具体的な事例がどんどん出てきた。

では、未来の足掛かりとして7年後のオリンピック開催年の事を考えてみようとの提案で、「お・も・て・な・し」が話題に上った。

その出発点は「挨拶で親切にしてあげる気持ちが大切」。交通の面ではバリアフリーの普及や渋滞の問題が語られ、「道路を造るだけではなく、使い方を考えて解消させる方法もあるのではないか」と痛いところをつく。大切なものの一つに街の景観があるが、「どんな状態なら気持ちが良いか、建物のあり方を考えて奇抜なもの避け、地域にあった色や材料を使ったら良い」との意見に、会場の建築に携わっている側からは、「景観条例という法があり調和のとれた町並み形成に努力している」というやり取りの一幕もあった。

3人がそれぞれの角度から表現してくれた思いが力となり、やがて町を良くしていく。松枝理事がおっしゃった。「君たちが元気な町を創っていく。大丈夫だね」と。

今回の3人は去年のシンポジウムにも来ていただいている。一年の成長がうかがえて、希望が持てる未来を見た感じがした。

(報告：中田千恵子)

●未来クラシックコンサート

演奏：コルーチェ

17:30 ~ 18:30

初日の最終イベントは昨年に続いてコルーチェ (Colluce) の「未来クラシックコンサート」だ。

Violin/小野瀬はるかさん、Vocal/栗田裕子さん、Piano/重松華子さんの3人が織りなす女性アンサンブルユニットで、気品に満ちた透き通るソプラノで会場は満員になった。通行人が足を止め、音楽を堪能した。特に「アヴェ・マリア」は圧巻で心



コルーチェによる優雅な演奏
(未来クラシックコンサート)

が震えるような感動を味わった。隣の席で目を閉じて聞き惚れていた年配のご婦人が思わずもらした「すばらしいわね」の言葉にうなずいていた。(報告：中田千恵子)

●Bステージ

「多摩産材と遊ぼう～東京の木と竹と和紙を使って～」

12:00 ~ 18:00

Bステージでは12時から18時まで東京の木と竹と和紙を使ったワークショップが開かれた。

この催しはあきがわ木工連・佐藤眞富氏、あきるのふるさと工房の協力で、多摩の木材を使って製作したドアやテーブル等の展示、手漉きの軍道紙(和紙)の展示に加え、その軍道紙を使った壁掛け作り体験や青竹切りなど。切り出したばかりのみずみずしい青竹には度肝を抜かれた。

実際に来店者には竹切り体験をして頂き、また北部支部の高橋さん手作りの竹トンボのキットの配布や、奥山さんの紙トンボ作りなどが華を



Bステージでは、東京の木と竹と和紙を使ったワークショップが開かれた。

添えた。会場としては裏にあたる場所だったが、盛況のうちに終了した。(報告：中田千恵子)

2日目 (10月7日)

●新宿区セミナー

11:00 ~ 12:00

「新宿区第二次環境基本計画 重点的な取り組み」を環境清掃部の田中栄成(ひでなり)氏から聞く。新宿の現状は、もはや規制だけでは済まず、低炭素、温室効果ガス低減などスマートコミュニティを目指す段階。そのためにも環境ボランティア(3000人弱)、「みどりのカーテン」

(年に約2000枚)、「新宿の森」等の主体的ネットワークや、出前講座等の環境学習の役割が大きい。これまでは「電気は、買うもの使うもの」。これからは「作るもの売るもの」となるほど。

続いて「誰もが移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちへ」と題し、都市計画部の蓮見修氏。駅周辺の東西、上下階の行き来、歩車分離、等のハード策に加え、歴史文化に容易にアクセスし「新宿の魅力」を紹介するための案内表示、ミニバス運行等も検討中。超高齢化と東京オリンピックへの外国人来訪をふまえ、ユニバーサルな視点を訴えた。

(報告：村田くるみ)

●新都心・新宿の未来を共に考える

12:30 ~ 14:00

工学院大学の村上正浩准教授の「都市再生計画が進んでいるが、抜けているものは無いか、新宿に活気と賑わいが戻ってくるのか」との導入の後、トップバッターは大学院生の石井千歳さん。新宿の基本情報(位置、地形、地理、特性、歴史)を紹介。

続く増田順也さんは、ヒートアイランド、人口減少、国際化対応の不足など、新宿の課題を説き「キュレーションシティ」の提案へ。MICE機能の強化、「まちの軸」である4

●支部発表コンテスト

10月7日(月) 16:30 ~ 18:30

年々充実してくる研修委員会担当による「支部発表コンテスト」が16:30 ~ メインステージで開催された。参加支部は27支部。どの支部も内容の濃いアピールであったが、僅か3分での説明ではなかなか全てを表現する訳にもいかず、発表者は苦労していた。

各支部とも「未来へ~創生のとき~」という難解なテーマに挑み、上手く表現した支部もあり楽しい発表となった。支部の地勢、交通、自然、歴史、登録設計事務所数と会員事務所比率等、支部の置かれている状況を知ることができたのは有意義だと感じた。

祭りが地域興しの原点だとか、公共交通が便利だとか思われている区域が実はそうでもなかったり、また23区の支部にはなかなか理解しがたい事だろうが、幾つかの行政区をまたいでいる支部は、活動の困難さがにじみ出ている。

昨今超高層建築の短命さが問題となっているが、諸外国に学ぶ建物を大切に使うためには海外での研修も必要であろう。禁じ手と思われる模型を出展している支部も有り、水やりの苦労も有ったそうだが楽しい展示だった。また、2020年オリンピックに期待する言葉も聞かれた発表だった。

グランプリ「渋谷」準グランプリ「立川」「千代田」「目黒(常連)」「文京」「江戸川」「西多摩」と多数の支部が入賞した。常連の新宿、台東は名前が呼ばれずリベンジが期待される。

なお、最終日には支部パネルコンテストの表彰も行われた。結果は下記の通りとなっている。

(報告：栗田幸一)

支部発表及び 支部パネルコンテスト

▼最終結果

【支部発表コンテスト】

グランプリ：渋谷支部

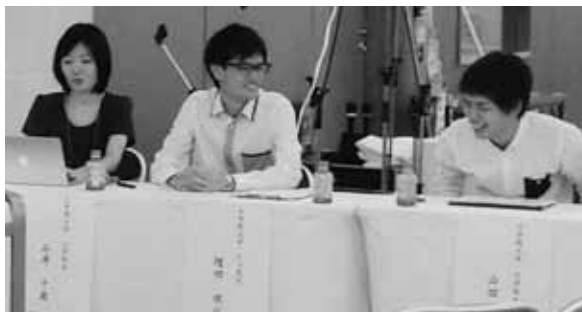
準グランプリ：立川支部、千代田支部、
目黒支部、文京支部、
江戸川支部、西多摩支部

【支部パネルコンテスト】

グランプリ：新宿支部

準グランプリ：台東支部、渋谷支部、
中央支部、立川支部

なお、p24に今回出展された支部パネル(一部)を掲載しています。



工学院大学大学院の皆さん（新都市・新宿の未来を共に考える）

号街路のトランジットモール化、新宿のユビキタス化、BUFFER……、読者の皆様、大丈夫ですか？ 横文字を使いこなし、IT機能を呼吸するように操作し、その若さが羨ましい。

駅周辺の回遊性、ビル足下空間の接続と活用、創業支援等の好提案に加え、山田真哉さんが西新宿を中心にエリアマネジメントを提唱。

振り返ってみると、昨日の子ども未来会議、そして先ほどの新宿区セミナーとの共通キーワードが多いのではないかと。今や、世代も立場も超えて、「まちの未来」に知恵と思いが寄せられている。

（報告：村田くるみ）

●シンポジウム
「3日間を生き延びる
マンションの防災」
 14：30～16：00

世田谷区マンション管理士会から、理事長の松岡康榮氏をはじめとする5人の管理士をお招きして、マンション管理組合への支援活動、特に防災・耐震等に関する話しをお聞きした。概要は以下のとおり。

○3.11地震時の具体的な被害・影響

エレベーターの停止が多く、また外壁の亀裂、壁の剥落、地盤沈下などがあった。

○3.11地震後の相談事項と傾向

防災対応のマニュアルについてや、相談相手となるコンサルタントはあ

るのか、その費用や時間などについての相談が多かった。また戸建てからマンションへの住み替えが以前より増えた。これは戸建てよりマンションの方が安全と考えられているようだ。

○その後の対応や取り組みについて

防災マニュアルの整備、防災委員会の立ち上げ、火災保険・地震保険への加入推進、備蓄品の購入など。

○沿道耐震化の現状

（東京都建築安全支援協会より）

対象物件4900棟のうち耐震診断が完了したものは約2500棟。さらに耐震設計の完了は約250棟で、耐震改修工事完了にいたっては約100棟に過ぎない。今後条例が延長されるのか、また耐震化実施に向けてどのような努力が必要なのかを検討する必要がある。

耐震診断・補強の助成制度は、特定緊急輸送道路沿いでは手厚いが、その他の地区では薄いのが問題。

○今後の課題

マンションでは、個々の利権や不公平感などにより住民の合意形成がとて難しい。また耐震診断・耐震補強の必要性は理解されているが、政府や自治体の補助だけでは持ち出しが多くて実施が困難である。

それを解決するには、自分達のマンションは自分達で守るという意識を持つことと、普段からのコミュニティづくりが非常に重要である。その上で耐震の必要性を丁寧に説明していく必要がある。

☆「3日間を生き延びる」というタイトルのイメージとはちょっと違ったが、大勢の住民が関わるマンション（共同住宅）では、オフィスやその他の建築物とは違った難しさがあることを痛感させられたシンポジウムであった。（報告：青木雅哉）

3日目（10月8日）

●設計事務所の税制セミナー
 11：00～12：00

税理士の堀内行夫氏より25年度の税制改正のなかで私達会員に関連する事柄について説明があった。

1) 消費税総額表示の経過措置について

消費税は総額表示が本来であるが、増税に伴い「上乗せして値上げしているのではないかと誤解を招かないようにと企業等の要望を受けて、一定の期間は、商品の価格表示を「税抜き価格表示」にしても良いこととなった。私たちの作成する見積書や請求書等は、対象にはならないが、総額表示が望ましいとのこと。

2) 相続税の改正について

相続税の基礎控除が引き下げられ、実質増税となる。「少し大きな戸建ての家や賃貸マンションを持っていると相続税がかかる」可能性が出てくるということだ。

現行：5000万円
 +1000万円×法定相続人の数
 改正後：3000万円
 +600万円×法定相続人の数

又特定居住用宅地等の特例といって、相続税の課税価格に算入すべき価額の計算上、一定の割合が減額される特例がある。今回の改正でその敷地の適用対象面積が240㎡から330㎡に拡充される。減額割合は



堀内税理士による税制セミナー

80%なので、相続財産の評価が一番下がる特例だそうだ。

3) 印紙税の改正について

契約書に貼る印紙税の税率が、ほぼ半額になる。又「領収書」に貼る印紙は、記載された受取金額が5万円未満（現在3万未満）のものが貼らなくて良くなった。

「詳細は、各HPなどを参照し、損をしないようにしっかり対応して無駄な税金を払わないようにしてください。」との言葉で締めくくられた。

(報告：田口吉則)

●東京建築賞 パネルディスカッション 13:00～15:30

西倉副会長によるこの賞の目的やパネリストと各部門の紹介で始まり、各部門で最優秀賞をとった設計担当者が設計に対する姿勢と苦労やそれを解決する工夫が語られた。

最初は東京都知事賞を受賞した『有明小学校・中学校』。小中連携の公立校だが「その9年間のコミュニケーションで何を学ぶか？」を意識したという。子供はその9年間で見えるものが変わるので、小中間に共用棟を設けることでその融合を図ったとの事。スケール感を養うために、共用玄関に「実物大の恐竜から各種動物の壁画」を描いた。審査員からも高評価を得た「教育の見える化」は、これのみならず「廊下に表示された距離」など多岐に渡る。

続いては戸建住宅部門最優秀賞の『御茶ノ水のリノベーション』。元々事務所だった3階建ての小さなビルを住宅に改築した。クライアントは若い夫婦で、デザイン的にもかなり理解があったとのこと。事務所設立からほとんどリノベーション業務との事で、審査員もその「注意点」を知りたがった。ポイントは「図面にない所をチェックする」「既存設備

を確認する」「特に躯体の確認」とのこと。

次は共同住宅部門最優秀賞の『ゆいま～る那須』。70世帯の賃貸の『終の棲家』である。70世帯ではコ

ミュニケーションが図れないと考え「10～15」のユニットに分けて、それを中庭などでつなぐことを考えたという。特筆すべきは入居者による「ワークショップ方式」で設計を行ったことだ。審査員からは「私も入居したい」「設計もだが運営プログラムが素晴らしい」などと高評価であった。

次は一般部門一類最優秀賞の『日本文化大学メディアセンター』。湾曲し大きく開けた窓のファサードが印象的だ。いわゆる図書館とはかなりイメージが異なる。建物は大学のメイン動線上にあり、意図したことは「外を通る学友と顔を合わせる」とのこと。審査員からは「逆三角形の壁が1階に広い空間を広い空間を創り出していてシンプルでよく考えられた構造である」「キャンパスのコアとなっている」と、これまた高評価であった。

ラストは一般部門二類最優秀賞の『明治安田生命新東陽町ビル』。コンセプトは「事務スペースの連続性」と「揺らぎの空間による刺激と生産効率向上」とのこと。ほぼ正方形の建物のコア部分に角度をずらした吹き抜け（揺らぎの空間）があり、その周囲に各フロアをつなぐスロープがある。各フロアがオープンで立体的に一体となるわけだ。このプランにも問題はあるかもしれないが、クライアントとワークショップのように時間をかけて煮詰めたとのこと。審査員からは「さまざまな最新端技



パネリストとしてお集まりいただいた東京建築賞受賞者の皆さん

術を駆使している」「先々テナントビルになった場合の対応策も考えておくべきではないか」などと、いろいろ考えさせられるとともに興味深いパネルディスカッションだった。

鈴木選考委員長の「今年で39回を数え、年々質が向上している」「それぞれいろいろな問題点を建築的に解決していて、時代の求める課題への新しい可能性を感じた」という言葉とともに閉会した。

(報告：安田浩司)

●エンディング 16:00～

閉会式では、各支部の展示パネルに来場者が投票した結果の各賞が福島理事から表彰された。

それに引き続き、竹松理事の挨拶の後、中田委員長の閉会宣言で閉幕…。さて、そのあとが大変な撤収作業は毎年のこと。準備も大変だったが、もう少しがんばれば「打ち上げが待っている！」



実行委員の皆様、ご苦労様でした！！
(報告：安田浩司)